

これでわかる！

22年度 移行措置

新学習指導要領の完全実施を平成23年度に控え、移行措置もいよいよ2年目に突入します。昨年度の実践を踏まえ、22年度はどんなところに気をつけていけばよいのでしょうか？専門家の助言や現場からの声を参考に考えていきましょう。

取材・文 | 甲斐ゆかり イラスト | らう



今回の移行措置、
最大の特徴とは？

現行の学習指導要領と同じく、新学習指導要領においても、「生きる力」を育むという基本理念は変わらず受け継がれます。

その中で大きく変わるのは、次の3点です。

①教科指導を充実するため総授業時数が増える。
②「習得」「活用」「探究」といった学習活動と言語活動が重視される。

③5年生から週1時間の「外国語活動」が新設。「総合的な学習の時間」は週1時間削減される。

中でも①については、授業時数だけでなく、学習内容も増えることになります。これは、昭和43年以降、52年、平成元年、10年と行われてきた改訂の中では初めてのことです。

これまで長い間、「移行措置」というと、学習内容の削除・減少を指していました。しかし、今回は社会の要請もあり、一転、増加に方針転換。移行措置を経験してこられたベテランの先生にとっても、学習内容を「増やす」方向での移行措置は、初めての経験となります。

このことから、今回の移行措置が大変特殊であることがわかります。実際、編集部には「授業時数の確保に苦労した」という先生方の声が多く寄せられました。まずは、この点を押さえておきましょう。

理科と算数については
引き続き注意が必要

理科と算数については、学年をまたいで学習内容の大幅な移行が行われること、学年間での学習内容を重複させることにより、学力の定着を図る指導が行われること、などにより、教科の中でもとりわけ学習内容・時数ともに増加しています。

移行期間の指導にあたっては、どの児童も、漏れや落ちがないよう、同じ内容を学習していること、23年度時点で、円滑な学習活動が行われるようにしておくことももちろんですが、その先の中学校での学習にも支障が出ないように、先を見通した指導を心がけることが大切です。

対策のひとつとして、理科・算数に関しては、21年度から教科書を補完する補助教材が作成され、配布されています。昨年度と同様、授業時数増に対応した適切な指導ができるように、十分な教材研究をして臨むことが求められるでしょう。

左に、22年度の移行措置による追加・省略内容の一覧（理科・算数）を掲載していますので、確認用としてご活用ください。また、次のページには、先生方の体験談や、移行期最終年の注意点やアドバイスを掲載しています。ぜひ、こちらも参考にしてください。

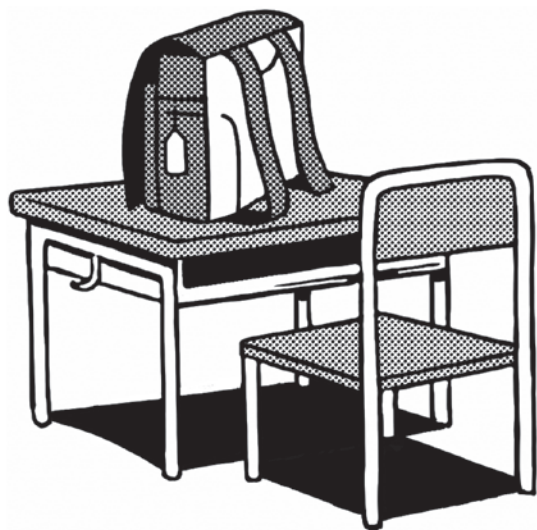
22年度移行措置の概要（理科・算数）

理科

学年	追加内容	省略内容	
3年	A生物とその環境	●身近な自然の観察 ・身の回りの生物の様子 ・身の回りの生物と環境とのかわり	
	B物質とエネルギー	●物と重さ ・形と重さ ・体積と重さ ●風やゴムの働き ・風の働き ・ゴムの働き	
4年	A生物とその環境	●人の体のつくりと運動 ・骨と筋肉 ・骨と筋肉の働き	
	B物質とエネルギー	・水の三態変化<金属、水、空気と温度> (「氷の状態変化」に「氷の体積変化」を追加)	
	C地球と宇宙	●天気の様子 ・天気による1日の気温の変化	
5年	A生物とその環境	・水中の小さな生物<卵の中の成長> *「卵の中の成長」と「母体内の成長」は必修	
	B物質とエネルギー	●電流の働き ・鉄心の磁化、極の変化 ・電磁石の強さ	●てこの規則性 ・てこのつり合いと重さ ・てこのつり合いの規則性 ・衝突<振り子の運動>
	C地球と宇宙	・雲と天気の変化<天気> ・川の上流・下流と川原の石<流水の働き>	・天気による1日の気温の変化
6年	A生物とその環境	・主な臓器の存在(「肝臓」「腎臓」を追加) <人の体のつくりと働き> ・水の通り道<生物と環境> ・食べ物による生物の関係<生物と環境>	
	B物質とエネルギー	●てこの規則性 ・てこのつり合いと重さ ・てこのつり合いの規則性 ・てこの利用 ●電氣の利用 ・発電・蓄電 ・電氣の変換 ・電氣による発熱 ・電氣の利用	●電流の働き ・鉄心の磁化、極の変化 ・電磁石の強さ
	C地球と宇宙	*「土地の変化と火山」と「土地の変化と地震」は必修 ●月と太陽 ・月の形と太陽の位置 ・月の表面の様子	

算数

学年	追加内容	省略内容	
1年	A数と計算	簡単な3位数<整数の意味と表し方> 簡単な2位数の加法・減法<整数の加法・減法>	
	B量と測定	面積、体積の比較 時刻の読み方	
	D数量関係	個数を線や図などで表す	
2年	A数と計算	[1万<整数の表し方>] 記号「>」「<」 簡単な分数 簡単な3位数の加法・減法<整数の加法・減法>	
	B量と測定	体積の単位(m ³ , dl, l)と測定 時間の単位(日、時、分)	時刻の読み方
	C図形	正方形・長方形・直角三角形 箱の形	
3年	A数と計算	[1億<整数の表し方>] 用語「不等号」 4位数の加法・減法<整数の加法・減法> 3位数×2位数<整数の乗法> 除数が1位数で商が2位数の除法<整数の除法> 小数(意味と表し方、1/10の位までの加法・減法) 分数(意味と表し方、簡単な分数の加法・減法)	
	B量と測定	[t<重さの単位>]	時間の単位(日、時、分)
	C図形	二等辺三角形・正三角形・角 円と球	正方形・長方形・ 直角三角形 箱の形
	D数量関係	□などを用いた式	
4年	A数と計算	四則計算の結果の見積もり<およその数> 1/100以下の小数のしくみ、加法・減法<小数>★ 小数×整数、小数÷整数<小数> (整数÷整数=小数★を含む) 大きさの等しい分数<分数> 同分母分数の加法・減法<分数> そろばん(加法・減法)	
	B量と測定	[a, ha<面積の単位>]	
	C図形	直線の平行や垂直 平行四辺形・ひし形・台形 立方体・直方体 直線や平面の平行や垂直	二等辺三角形・ 正三角形・角 円と球
	D数量関係	四則計算の性質(整数・小数など)	
5年	A数と計算	約数、倍数<整数の性質> 同分母分数(仮分数・帯分数)の加法・減法<分数> 分数の大きさ、大小の比べ方<分数> 異分母分数の加法・減法<分数> 分数×整数、分数÷整数<分数>	和、差の概数 による見積もり 小数×整数、 小数÷整数 <小数>
	B量と測定	ひし形・台形の面積の求め方 体積の単位(cm ³ , m ³)と測定 立方体・直方体の体積の求め方 測定値の平均★ 単位量あたりの大きさ	円の面積の求 め方
	C図形	多角形、正多角形 図形の合同 角柱や円柱[見取図、展開図]	直線の平行や 垂直 平行四辺形・ ひし形・台形
	D数量関係	簡単な比例★	四則計算の性質 (整数)
6年	A数と計算	異分母分数(仮分数・帯分数)の加法・減法	
	B量と測定	メートル法の仕組み	
	C図形	縮図や拡大図	立方体・直方 体 直線や平面の 平行や垂直
	D数量関係	文字を用いた式(a, x など) 起こりうる場合	



●表の見方

- ・ [] …内容の取扱い
- ・ ★の内容は、22年度に必ず学習することにはなっていませんが、23年度の指導への円滑な接続を図るために特に補助教材に追加される内容です。



22年度移行措置 対応するための 処方箋

22年度の概要をつかんだところで、
次は、専門家の先生のお話を聞いてみましょう。
現役の先生方からのアドバイスも必見です。

移行措置の「その先」を 早くイメージすることが大切です

早稲田大学教育・総合科学学術院教授 渡邊公夫 先生

移行措置によって、教えることが
「追加される」という発想は捨てる

移行措置においては、小学校6年間の
全体を通じて、学習項目が大量に動きま
す。それだけを見れば、今回初めて移行
措置を体験する先生は、「大変だ」と圧
倒されてしまうかもしれません。

ですが、文部科学省は、そんなに無茶
なこととは言っていないのです。全体を通
してみれば、学習量はそれほど唐突に増
えているわけではないことがおわかりに
なると思います。

では、なぜ大変そうに思えるのでしょ
う。

そもそも移行措置の期間は、旧来あつ
た古い考え方に新しい考え方が組み込ま
れる、非常に特殊な時期です。したがつ
て、他の時期に比べてスムーズにいか
ない場面も、当然増えてきます。

しかし、真面目な先生ほど、これまで
教えていたことも、移行措置で新たに
出てくることも、同じように全部きちんと
教えようとします。それはもちろん正し
いことなのですが、これまでと同じ教え

方のまま、移行措置で学ぶことを新たに
付け加えて教えるのでは、時間は全く足
りなくなってしまうでしょう。

実際の授業でも、まさに「とってつけ
たような説明」になってしまい、単に覚
えることが増えただけという、子どもに
とって負担の多いものになってしまいま
す。

「移行措置だから追加で教えないとい
けない」という発想ではなく、単元全体
の構成をイメージすることが必要なので
す。

カリキュラム全体を見て

その関連性の中で教える工夫を

移行措置で新しく学ぶことをよく見る
と、実はその多くは、現行の学習単元に
関連の深い内容であることがわかります。
「追加事項」などはほとんどそうです。

そのような場合は、ひとつひとつを順
番に、同じような手順で、同じ時間をか
けて教えるより、大きな流れ、学習の勢
いの中で教えていくほうが、よりスムー
ズです。

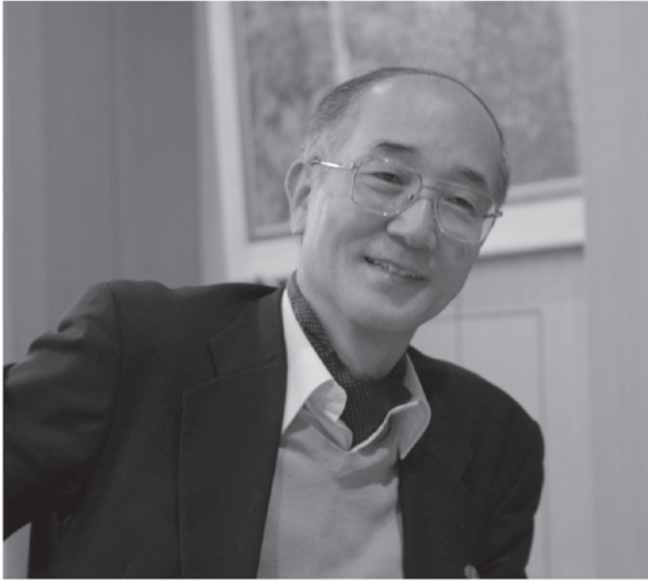
●教室からのアドバイス
カリキュラム全体を
見わたす視点を持つこと。
不安に思うことは、
先輩に思い切って相談を！

千葉県松戸市立八ヶ崎小学校 湯本雅信先生

本校の場合、授業時数の確保にあつた
での思わぬ障壁になったのは、新型イン
フルエンザによる学級・学校閉鎖でした。
これにより、授業の回転が非常に遅くな
り、取り戻すまでにだいぶ時間がかかり
ました。昨年从今年にかけて、このよ
うな事態にあった学校は、かなり多いの
ではないかと思えます。

移行措置については、中堅・ベテラン
の先生と、今回が初めてとなる若い先生
とでは、心構えや対応の仕方に、かなり
差があると思います。しかし、だからと
いって、若い先生方が気後れすることは
ありません。私の学校では、若い先生も
交え、学年単位で何度も教材研究や進度
調整を行いました。不安に思うところや
わからないところは、自分からどんどん
相談していいと思います。

また、先生間のコミュニケーションと
同様に、保護者ともきちんと意思の疎通
を図ることが大切です。学習項目まで降
りるような、細かい説明をする必要はあ
りません。その学年で何を学ぶようにな
るのか、ポイントをおさえた説明をし、
保護者の不安を取りのぞくことができれ
ばよいのです。そのためにも、学年全体
の学習内容を見わたす視点を身につけて
ほしいと思います。



PROFILE

渡邊 公夫 先生 *Kimio Watanabe*

筑波大学大学院教授を経て、平成18年4月より早稲田大学教育・総合科学学術院教授に就任。専門である数学教育学を学生に教授するかわら、教科書や教科教育法の書籍等の執筆、数学検定(国際算数・数学能力検定)の問題作成のほか、中央教育審議会の委員も務めるなど、多彩な活動を行っている。

例えば算数で3位数の学習をする場合、いったん2位数の学習を終えてから改めて学習に移るよりも、初めから3位数までを含めた授業を展開するほうが、学習の内容からしてもより自然でしょう。

また、ひとつの流れの中で教えることで、導入にあてる時間など、重複する部分も省略できます。

新たな項目が加わることによって学習量が増えるのは事実ですが、新しい項目を学ぶときには、それまでに学んだことも復習しながら学んでいくものです。カリキュラム全体の中で学習事項をどうふくらませればよいか、それとも、さほどふくらませなくても大丈夫なのか。補助教材もしっかり研究しながら、そういう視点で見たいと思います。

新しい指導要領が頭に入っていれば時間の増減を心配する必要はない

ここまで移行措置の話をしてきました

移行措置にうまく対応するためのポイント

- ① 移行措置の「その先」を見通して指導を行う
- ② 教科の一部ではなく「全体」を通して考える
- ③ 補助教材の研究をしっかりと行う

が、実は「移行措置にいかに対応するか」というのは、教師にとっては、それほど本質的な命題ではないのです。なぜならたとえ一生懸命にやったとしても、移行期間はあと1年で終わってしまうものだからです。

それよりも、移行措置の「さらに先」に関心を向けておくの方がずっと大切です。新しい学習指導要領では学習することはどう変わるのか、どんなカリキュラムで教えることになるか、小学校6年間で学ぶことの全体像を把握しておけば、移行期間の間に、どんなことをどう教えればよいかが見えてくるでしょう。追加事項ばかりを目で追うと、教えることだらけで大変なように見えるかもしれません。しかし、いざ新しい教科書で教えることになったとき、それらの事項はそう目立たなくなるものです。

先生方には、少しでも早く新学習指導要領実施後の視点に切り替えて臨んでほしいと思います。

●教室からのアドバイス2
時間をうまく活用し、できるところから工夫を。資料集めの「アンテナ」をはっておくのも大事。

千葉県佐倉市立上志津小学校 佐々木智光先生

本校では、平成20年度の日課表のコマ数のまま移行措置を実施したため、算数と理科の時間増分の40時間をどこで補っていくか、その対応に苦慮しました。

授業では、教科書に加え、移行措置用の補助教材を使用しなければなりませんでしたが、現実的に言って、授業中に2冊の教科書を使い分けるのは、かなり煩雑でした。

教科書会社の年間計画などでは、20年度と比較すると、算数科の場合、復習の時間が2時間から1時間に減少しています。しかし、実際の指導では時間が不足しました。

そこで、朝、15分のモジュール学習の時間帯を設け、それを基礎基本の学習にあてました。ドリル学習など、反復練習を効率的に行うことで、学習内容増に対応したのです。

算数では、これまで高学年で学んでいた学習内容が下の学年にたくさん降りてきています。分配法則を使った計算の工夫など、高学年でも指導に苦労する内容も少なくないため、指導により一層の工夫が必要だと強く感じています。

また、役に立つ資料を集めるため、日頃から常にアンテナをはっておくのも大切だと思います。